

令和2年駅北地区観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会会議録

令和2年 7月10日（金曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午後 0時16分

○会議に付した事件

1. 観光インフォメーションセンターの取組について
2. ロングランイベントについて
3. 民間活力ゾーンの検討状況について
4. 周辺環境について
5. その他

○出席委員（13名）

| | | | |
|-----|-------|------|---------|
| 委員長 | 広地紀彰君 | 副委員長 | 森哲也君 |
| 委員 | 久保一美君 | 委員 | 佐藤雄大君 |
| 委員 | 貳又聖規君 | 委員 | 西田祐子君 |
| 委員 | 前田博之君 | 委員 | 大淵紀夫君 |
| 委員 | 吉谷一孝君 | 委員 | 小西秀延君 |
| 委員 | 及川保君 | 委員 | 長谷川かおり君 |
| 委員 | 氏家裕治君 | 議長 | 松田謙吾君 |

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

| | |
|------------|-------|
| 副町長 | 古俣博之君 |
| 副町長 | 竹田敏雄君 |
| 企画課長 | 工藤智寿君 |
| 経済振興課長 | 富川英孝君 |
| 経済振興課参事 | 臼杵誠君 |
| アイヌ総合政策課長 | 笹山学君 |
| 経済振興課主幹 | 太田誠君 |
| 経済振興課主幹 | 鶴沢友寿君 |
| 企画課主幹 | 喜尾盛頭君 |
| アイヌ総合政策課主査 | 江草佳和君 |

○職務のため出席した事務局職員

| | |
|---------|-----------|
| 事 務 局 長 | 高 橋 裕 明 君 |
| 主 査 | 小野寺 修 男 君 |

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これより、駅北地区観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会を開会いたします。

（午前10時00分）

○委員長（広地紀彰君） 本日の委員会の日程等についてであります。

調査事項は、1項目め、観光インフォメーションセンターの取組について、2項目め、ロングランイベントについて、3項目め、民間活力ゾーンの検討状況について、4項目め、周辺環境について、5項目め、その他についてであります。

このことについて町側から説明を受けて質疑を行います。

よって本日の会議は1日間といたします。ご意義ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 異議なしと認めます。

それでは、5項目について一括して町側から説明をお願いします。

まず、1項目めの観光インフォメーションセンターの取組について説明を求めます。

竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 説明に入る前に私から一言ご挨拶をさせていただきたいと思います。本日はお忙しいところ説明の機会をいただきましてありがとうございます。民族共生象徴空間、ウポポイについては明日、11日土曜日に開業式典、そして12日日曜日にいよいよ開業を迎えることとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで2度の延期を余儀なくされたところではありますが、アイヌ文化の保存、伝承のナショナルセンターとして、その役割が未長く機能されることを願うとともに、ウポポイの所在自治体として、その成功に最大限の努力をしていきたいと考えております。本町におけるウポポイの開設を将来のまちづくりの最大の好機と捉え、まち全体の活性化の起点としてJR白老駅北側に駅北観光商業ゾーンの整備を目指し、取組を進めているところであります。本日は担当より、現在の進捗状況等を中心に説明をさせていただきます。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見等を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 本日、駅北地区観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会の開催に当たりまして、この後の流れについて簡単にご説明させていただきたいと思います。

本日の調査事項につきましては、1つ目が観光インフォメーションセンターの取組についてでございます。それぞれ開館以降の入込状況、取扱品目等の状況、それから人員業務体制についてご説明をさせていただきたいと思っております。

2つ目のロングランイベントにつきましては、白老町の主催するロングランイベント、それから北海道の主催する事業についてご説明をさせていただきたいと思っております。

それから、3つ目、民間活力ゾーンの検討状況につきましては、これまでの取組、今後の方針に

ついてご説明させていただきます。

4つ目、周辺環境についてでございますが、大型バス駐車場、それから白老駅臨時改札等の状況、それと交流促進バスの運行について、それぞれの項目についてご説明をさせていただきたいと思っております。

先ほど副町長からも申し上げましたとおり、いよいよ7月12日開業ということになってございまして、我々担当といたしましても当初4月24日、それから5月29日とそれぞれに向かっていろいろな部分で準備を進めてまいりまして、最後7月12日についてはぎりぎりまで日程が決まらないということでもございましたので、なかなか調整等々が難しいことがございましたけれども、開業に合わせて、いよいよ特に4番目の臨時改札あるいは交流促進バスの町内を周遊させたりする仕組みといたしまして、12日から滞りなく実施できるよう準備を進めてきたつもりでございます。そういった部分も含めてご説明をさせていただきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） それでは、私から調査事項1、観光インフォメーションセンターの取組について、2、ロングランイベントについて説明させていただきます。

まず（1）、開館以降の入込状況についてでございます。観光インフォメーションセンターについては、4月1日から観光情報の発信や物販ブースでの特産品の展示販売を行う予定でございましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により観光案内機能のみで営業してまいりました。5月25日に緊急事態宣言が解除されたことから、5月28日からアイヌ工芸品などの物販の一部を再開したところであり、7月4日からお土産や飲食物の販売をスタートさせました。総入館者数として4月から6月の営業日数は合計で54日間あり、1万795人でございます。そのうち、右側のほうが観光案内を利用した客数となっております。1日平均でいくと200人くらいになっております。7月に入ってから、こちらに記載がございませんが7月8日までの8日間の入館者数は3,827人でございます。1日平均にならずと約480人でございます。特に7月5日、日曜日には1,183人の入館者を記録したところでございます。

続きまして、（2）、取扱品目等の状況についてでございます。7月4日から土産物の食品の販売を始めたところでございます。シイタケ、タラコ、白老牛など地元食材を使用した加工食品やアイヌ民族の食文化にちなんだ商品の販売をさせていただいております。下の表の広域観光・特産品展示PRスペースにおいては約400品で食品が約250品、白老町産品、胆振管内の産品、四季彩街道近郊の産品、姉妹都市の産品、ナショナルブランド等を中心に雑貨工芸品が約150品ありますので、これと合わせて400品となっております。

続きまして、下の新商品PRスペースということで軽飲食5品9種ということでソフトクリーム、ミニおにぎり、ユク饅、スイーツ、パンを地元の事業者と協力していただきながら商品をそろえております。この後も、エントソフトの販売も予定しておりますし、町内事業者の新商品の募集も随時取り扱う次第でございます。酒類の販売もこのPRスペースでビール・ワイン・日本酒等とする予定でございます。

続きまして、3ページ目、（3）、人員業務体制でございます。この観光インフォメーションセン

ターの管理運営に当たっては、白老駅北観光商業ゾーンの基本計画に基づいて観光商業の情報発信機能、休憩・交流機能、地域連携機能の3つを柱に地域の特性を生かしたサービスの提供と安全で快適な施設を維持するため適正に管理に努めていくものでございます。観光インフォメーションセンターについては4月1日から3月31日の間で営業時間が午前8時から午後6時ということで、年末年始の12月29日から1月3日までが休館日となっております。そういった中で、白老の観光協会に指定管理をして、利用施設の適正な管理運営、観光情報及び地域情報等の発信、地域、広域観光特産品の展示、販売、新商品PRの販売、着地型観光、体験プログラムの提供及び販売等を行っているところでございます。

運営体制としては、総合調整・管理、物販担当として正職員1名で観光協会の職員でございます。昨年、北海道のご紹介をいただいて採用いたしました。②として、広域観光・特産品展示PR販売は臨時職員2名で対応させていただいております。そのほか新商品PRスペースの運営は臨時職員3名、観光情報案内については観光協会の職員2名ということで、1名は観光協会の職員で1名は地域おこし協力隊という形になっております。そのほかに事務室には観光協会の職員として4名おり、このような人員体制の中でインフォメーションセンターの管理運営に努めているところでございます。

続きまして、調査項目2のロングランイベントについてでございます。(1)、白老町主催事業についてでございます。開催目的については、ウポポイの開業に併せて本町の持つ豊かな観光資源を活用したイベントを開催することによって、アイヌ文化をはじめとした観光資源を広く発信して、北海道が行う民間活力導入区域で実施するイベントと連携を図りながら賑わいの創出を図っていきたいと思っております。また、イベントを開催するに当たっては新北海道スタイルの7つの習慣化の安全対策を徹底して、新型コロナウイルス感染拡大防止にも努めながら、イベントを開催していきたいと思っております。開催場所はインフォメーションセンターのポーチ、ポロトミンタラ交流広場、園路等を活用しながら行っていきたくと思っております。開催期間は7月12日ウポポイの開業日から10月上旬の土日、祝日を予定しております。計14回くらいになるかと思います。イベントの内容は、7月12日開業日にはアイヌ協会のご協力をいただいてオハウの無料提供、白老産野菜・花苗・鉢花の直売会、餅・団子の直売、いぶりウポポイウェルカムキャンペーンのPRは胆振総合振興局のご協力をいただいて、ウポポイの入場券を提示すると胆振管内の飲食店や観光施設などでお得なサービスを受けられるという制度を開業日から9月30日まで実施しますので、そのPRのため胆振総合振興局の協力を得て開催いたします。18日、19日、23日、24日、25日、26日については、白老産野菜の直売会を中心に白老バーガーなど餅・団子、25日、26日に関しては姉妹都市つがる市の特産品の直売会も行います。こちらについては、やはりコロナ禍の中、保健所にお伺いしたところなかなか飲食を伴うイベントというのは実施しているところが少ないため、あまり保健所の許可がもらえない形で野菜の直売会を中心に7月は実施したいと考えております。8月以降に関しては、もちろんコロナの状況を見ながらだとは思いますが、白老の笑顔まつりですとか、子供向けのイベント、ミニ音楽ライブ、フリーマーケット、そして白老の特産品をフル活用した大きめのイベントなどもできるのであれば実施したいという考えでございます。チラシも参考資料としてつけさせていただきますので、こちらは今週の11日の土曜日の新聞折り込みで配布されます。

続きまして、(2)、北海道主催事業についてでございます。開催目的については、ウポポイの開業に併せて、白老のイベントと同じですがアイヌ文化をはじめとする北海道の多彩な魅力を発信するとともに、地域・観光客の皆様の笑顔あふれるイベントを開催し、ウポポイ周辺の賑わいを創出することを目的としという形になっております。開催場所については、民間活力導入区域ということになっております。開催期間は7月12日、日曜日から8月下旬までの期間において実施いたします。イベント内容は北海道観光情報コーナーの設置、アイヌ工芸品の展示・販売、刺しゅう体験等の実施、常設プレハブショップとしてキッチンカーフェスティバルを8月7日から10日に開催、そのほかチャレンジショップ、これは地元の飲食店ですとかそういう部分を募集しているところであると聞いております。

○委員長（広地紀彰君） それでは、続きまして、3項目めの民間活力ゾーンの検討状況について説明を求めます。

鶴澤経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（鶴澤友寿君） それでは、私から調査事項3の民間活力ゾーンの検討状況についてご説明いたします。資料3を御覧ください。まず経緯であります。これまでプロポーザル審査委員会を2回開催しております。1回目は平成31年3月27日に開催しております。事業候補者の決定後、令和元年9月に事業候補者から事業協定解除に関する申出書の提出を受けまして、町として事業撤退に合意したものであります。第2回目は令和元年8月21日に開催しております。1件の応募がありましたが、評価点数が審査基準点に達しなかったため事業候補者の決定には至らなかったものでございます。

続きまして、これまでの検討状況と今後の方向性についてであります。これまで2回のプロポーザルが不調に終わったことから整備方法の再考も必要であると考えまして、ディベロッパーなどへ資料の配布を行ったとともに、建物と駐車場一体の一括リース方式の検討などを進めてきました。結果的には方針の決定には至っていない状況であります。現在のコロナ禍の影響から多くの事業者が経営上の打撃を受けたことにより出店意欲の低下が顕著となっているため、今後につきましてはコロナ禍の推移や経済の状況を見極めながら、引き続き行政整備区域と一体となった賑わいの場を創出するため、民間活力導入区域の事業者の誘致に努めてまいります。

○委員長（広地紀彰君） それでは、続きまして、4項目めの周辺環境について説明を求めます。

太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） それでは、4番目、周辺環境について私から説明させていただきます。(1)、大型バス駐車場についてでございます。大型バス第1駐車場、約50台、第2駐車場、38台の管理運営については、駐車場用地を普通財産として貸付けを行い、一般社団法人白老観光協会による独立採算で管理運営を行います。なお貸付料については普通財産の貸付料のほか、駐車場整備に要した応分の費用についても納入していただくこととしております。運営方法でございます。業務開始時期でございます。令和2年7月12日、ウポポイの開業日からとなっております。営業時間については、ウポポイの営業時間に合わせて営業ということで夜間営業する場合は8時までなどで営業させていただきます。休業日についてもウポポイの休業に合わせて運営を行う形になっております。人員体制は常時3名でウポポイのバスの乗降場に1名、バス駐車場の管理棟に2名で第1

駐車場が満車になれば1名の職員が第2駐車場に移動する形でございます。駐車料金については大型・中型バスで1日2,000円、マイクロバスで1,000円になっており、業務内容については先ほども申しましたがウポポイのバス乗降場での誘導、大型バス第1・第2駐車場での誘導、利用料金の徴収、駐車場の維持管理、公衆トイレの清掃等となっております。

続きまして、(2)、白老駅臨時改札等の状況についてということで、①、白老駅臨時改札の設置でございます。ウポポイの開業後、アイヌ文化の理解を目的とした来訪者が急増することからウポポイへのスムーズな移動、町民の利便性向上を目的にJR乗換跨線橋と自由通路を直接往来できる臨時改札口を設置いたします。こちらも観光協会に業務委託をいたします。改札開始時期は令和2年7月12日からとなっております。営業時間は8時半から18時までの間で特急列車、普通列車、上り下り合わせて35便を対応いたします。休業日についてもウポポイの休業に合わせる形となっております。人員体制は2名で、準備期間も含めると8時から13時まで及び13時から18時30分まで対応するという形になっております。業務内容としては臨時改札における切符、定期券の確認で改札・集札業務のみで現金の取扱いは行わないという形になっております。利用人数の把握ですとか、臨時改札のところにJRのご協力を得て観光パンフレットのラックを置いていただけるようになりましたので、そこで観光客等に対する簡単な観光案内なども実施できればと思っております。

続きまして、②の白老駅舎管理・清掃業務でございます。令和2年3月14日に供用開始の白老駅舎内の観光トイレ・観光案内ブース・自由通路の維持管理、清掃業務を白老観光協会に委託いたします。委託期間としては4月1日から3月31日、清掃箇所は観光案内ブース、観光トイレ、自由通路となっております。休業日はございません。365日ということになっております。業務内容としては清掃業務を1日4時間していただくことになっており、もちろんトイレットペーパーの補充ですとか、そういうこともしていただくということになっております。駅の観光案内ブースは観光インフォメーションセンターが開く時間と一緒に8時から18時まで駅の観光案内ブースは無人ですが置いています。一応パンフレットの補充などもこの清掃に合わせてしていただくことになっております。

続きまして、(3)、交流促進バスの運行についてでございます。こちらウポポイの開業に合わせて来訪者の円滑な移動を支えるために、また町内の回遊性を促進するために白老駅を起点にウポポイ、ポロトミンタラ、また飲食店を回る市街地巡回バスを運行する予定でございます。業務の委託先は白老観光バスでございます。運行開始時期は7月12日からとなっております。運行台数は2台となっております。休業日はウポポイの開業に合わせる形でございます。利用料金は1乗車100円、業務内容は交流促進バスの運行、利用料金の徴収、バスの維持管理、利用人数の把握です。運行便数は26便です。

○委員長(広地紀彰君) ただいま説明が終わりました。

ここで質疑をお受けします。質疑がありましたらどうぞ。

4番、貳又聖規委員。

○4番(貳又聖規君) 4番、貳又でございます。私からは、資料1の観光インフォメーションセンターの取組についての1枚目の関係です。観光協会の職員の皆様には朝8時のオープンから対応いただいております、休日返上で夜もかけて奮闘されておられるところを間近に見させていただいて、

本当に感謝しているところでございます。その中において今後、駅北インフォメーションセンターの入込客数のカウントの仕方が重要なのかと思うのです。ここでは、例えば総入館者数1万795名、そして観光案内の利用者数が2,568名ということで、観光案内の利用者数は実際に対応しますから、これはきちんとした実数であります。その中において、こちらのセンターは物販で実際にレジを通すお客様の数と、例えば車1台で4人の家族が来たときに買物をするのは代表の方ですから、そこで買物をするると1カウントになります。でも残りの3名の方々がいらっしゃいます。そういった方のカウントの仕方を確認させていただきたいと思えます。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） カウントについては、物販の実数とかそういうものではなくて入り口に自動でカウンターがついておりますので、それを通して行って来たということで、それが積み上がっての数字になっております。

○委員長（広地紀彰君） 4番、貳又聖規委員。

○4番（貳又聖規君） 今、お話を聞かせていただいて、これはとてもいい取組だと思ったのです。今、DMOとしても市場分析、マーケティングをしながらどう戦略を打つかということですので、今までですと人がカチカチとカウントするイメージでしたが、それが自動的になるということは我がまちの観光の市場調査的なところでいくと画期的な土台ができたと感じました。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員の質疑をお受けします。

12番、長谷川かおり委員。

○12番（長谷川かおり君） 長谷川です。観光インフォメーションセンターの取組について、2ページ目に取扱品目の状況があります。それに付随しまして、白老町を盛り立てようということで実は白老町のまちおこしのために天童よしみさんの元気まち音頭のテープをかなり前に販売しながら、まち全体で盛り上げようということで小学校の運動会のときも家族と一緒に踊るといものがありました。そして、白老町のカラオケの協会の方から札幌のこのテープを起こした関連の方にカラオケのCDがないかという問い合わせがありまして、それを何とか白老町でまちおこしのためにCDを起こして販売してはどうか。何かイベントのときに流してはどうだろうかという声がありまして、それに対してまちとしては今後どのように考えているか、ここをお伺いしたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 元気まち音頭などの部分で天童よしみさんに歌っていただいてということでございまして、港まつりなどで活用のお機会はこれまであったかと思っております。今、長谷川委員のお話ですと、CDなどで再音源化をして、さらに活用してはどうかということでございました。貴重な観光資源といいますか町の財産ではあり、実のところ制作に携わったプロダクションの方ともお話ししました。当時は天童よしみさんか伍代夏子さんか、そういった方であなたがいいかという話で、まだあまり皆さん名を高めていらっしゃらない時期で、天童よしみさんを選ばれたということも伺っております。今でいいますと、非常に大きな金額を出さなければならず遠い存在になったのではないかと思います。どこかの部分でそういった価値を再認識しながら活用の機会は伺っていきたく思っておりますが、CD化がいいのか音源としては何かしら残すことはできると思うのですけれども、それを改めて皆さんに販売してというところは、どういう活用

方法がいいのかということも含めまして、その辺は長谷川委員のご意見いただいた部分を今後検討してまいりたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 12番、長谷川かおり委員。

○12番（長谷川かおり君） 長谷川です。前向きに取り組んでいただきたいと思えます。コロナの関係があると思うのです。小樽市で昼カラということでクラスター感染があって、それに伴って歌を歌いたいという方は年齢が上の方もたくさんいらっしゃるの、ご自宅でCDを購入してカラオケの練習をしたいとか、そういう方もいらっしゃると思えます。そういうところも考慮しながら前向きに、例えば今回のコロナの予算などを使ってコロナ関連ということでCD化できないか、検討をお願いします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 昼カラとか、そういった小樽市での問題も含めましてなかなか皆さんが一堂に会して歌を歌って楽しむという時間が取れないという部分にあっては、ご自宅で楽しめる環境をとるところは検討してまいりたいと思っておりますが、町としてコロナなども含めて予算をかけて改めてCD化することがいいのかどうかについては、少し検討させていただければと思っております。ただし、現存している部分については昔のカセットテープの時代のものが商品としてあるという状況ですので、そういったご希望があった場合には何かしらの対応については検討してまいりたいと思えます。

○委員長（広地紀彰君） 5番、西田祐子委員。

○5番（西田祐子君） 今の件なのですけれども、カセットテープがあるから何らかの検討をしていきたいというのですが。実際にこの元気まち音頭というのは白老町で二十数年間、確か平成6年くらいに始まったと思うのです。港まつりで必ず毎年歌って踊ってきました。今年度は港まつりがなくなりました。町民の方々から、この元気まち音頭はどうなるのだろうという声があります。昔、ポロトタンという曲もあって、私は若いときにポロト湖から駅前まで皆さんで並んで踊ってきた、そういう歴史もあります。せっかくお金をかけてつくったこの曲、また今回これでなくなってしまうのかという声は私も長谷川委員と同じようによく聞いていました。そういう中で、白老町が元気まち音頭の著作権を持っていると思うのです。もう1曲、水森かおりさんの曲もあります。その曲も実際にカラオケで歌うと白老の湖の映像ではないのです。ポロト湖ではないのです。よその湖が映るのです。多くの町民の方々から白老のまちは白老のまちなのだと、アイヌ民族博物館ができてこれもあくまでもアイヌ民族の全体の施設であって、白老は白老のまちとしてのそこをなくさないでほしいという願いがあるのです。町民の方々が結構カラオケで白老慕情とか歌っているのですけれども結局、元気まち音頭はカラオケでも歌えない、つまり自分たちのまちの歴史をなくしたくないという思いから今、長谷川委員がおっしゃった話につながっていくのではないかと思うのです。ですから検討しますではなくて、本気で白老のまちのことをきちんと持続化していくということを考えたときにこの観光商業ゾーンの活性化なのです。白老のまちを元気にするためのものです。観光インフォメーションセンターのところでもどんな曲をかけるのですかということになるのです。イランカラプテをかけるのか、元気まち音頭をかけるのか、何の音楽をかけるのでしょうか。白老のまちは、どんなまちな、自分たちのまちは自分たちのまちできちんとPRしてほしいというのが

結局そういう話になったのではないかと私も思って聞かせていただいていたいました。その辺について申し訳ないですけれども理事者はどうお考えなのですか。中途半端な考え方ではなくて、きちんと白老のまちとして、どのようにまちをPRしていくのかということも大事だと思いますのでご意見を伺いたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 今、西田委員からお話がありました、元気まち音頭等について先ほど課長のほうで検討しますといった部分はいろいろな意味を含めた中での検討ということで、決してなくしてしまうとかということではなくて、どう利用していったらいいのかということについて検討していきたいというお話をさせてもらいました。元気まち音頭を例えばお祭りの中で今後、港まつりはやるかやらないかという部分はありますけれども、これから行われるであろうお祭りの中でどう活用していくか、そういった部分も頭に入れながら曲を使っていければと思っております。決して中途半端になくしてしまうだとか、そういった意味で考えているわけではなくて、昔からある曲ですから皆さんがお使いになれるよう有効的に使っていただければと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 5番、西田祐子委員。

○5番（西田祐子君） 長谷川委員がそういう話をしていたというのを著作権を持っている勇金社長から直接お伺いしました。私はチャンスがあるときにやらないと駄目だと思っています。ただららとして後になってしまったら、昔の曲のようにになってしまうのです。ポロトコタンの夜のようにどこにいったしまったのか、訳が分からなくなってしまうと、今その歌を歌いたくても音源自体を誰が持っているのかということまでなってしまうのです。多くの町民の方々が歌いたい、聴きたいと思っているのですから、それにはきちんと応えるために早急に考えていただきたいと思います。時期は逸してはいけないのではないかと私は思います。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 時期を定めてどのような扱い方をしていくのかという部分でございます。時期はともかくとして、まずはどう活用していき、または保存していくか。町民の方が望まれているという部分も含めて、それはきちんと考えていきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からありませんか。

6番、前田博之委員。

○6番（前田博之君） 先ほど竹田副町長からオープンに当たったの話がありました。私も同じです。オープンしますけれども、逆にこれから白老町としての実力や潜在能力が試されるのかと思います。このチャンスを生かして町民、全ての人が利益を享受できる取組をぜひしていただきたいし、私もそういう形の中で発言もしていきたいということです。否定ではありません。こういう時期にこそ政策をチェックして、よりよい効果が出て果実を生む議論をしていきたいと思っております。多少、苦言的なこともあるかも知れませんが、前向きな答弁をお願いしたいと思います。

まず、インフォメーションセンターなのですけれども、この資料を見ると今これで仕方ないのかと思っております。従来から入込数もそうですけれども、いかに観光客の消費動向、消費額がどうかということが地域内経済循環に影響があるのだと言っているのです。まだ売上げがないから出な

いのかも分かりません。入込みも大事ですが、そういう観点からいかないと地元の外貨が落ちないのです。そういう視点で今後の資料づくりに当たってほしいのです。そういうことを含めて指定管理について伺います。ということは入込状況についてはありますけれど、経営状況については何も言っていないのです。コロナの中でこうだったと説明がありました。指定管理料は当初は100%ではなく、自主努力で経営すると3割は自主事業で充当するということです。今日の説明を受けると何か月間か休んでいます。これに対して経営状況が今後の見通しでどうなるのか。当然、これから努力していただきたいですが、この間のトータル的に見た町の財政負担、指定管理料はどのような状況になっているのでしょうか。丸々簡単に休業した部分に対して指定管理料を増やしてくださいとなるのですか、これから経営努力をしていく中でそれは消していくという考えになるのですか。今日は財政課長が来ていませんが、これは大事なことなのです。町だけでいけば、そのままお金をくださいとくるかもしれません。それでいいのかどうかです。十分にこういう緊急の場合はあったのですが、そこの知恵なり能力を発揮して、単なる町が負担するという発想にならない形の中の状況にしないと町民からも批判が出てくると私は思います。

次に一つは、ロングランイベントについてです。中身については言いません。あえて言わせてもらいますけれども、これまでもそうなのですが、このイベントは対症療法的、あるいは一過性で終わらせることなく補助金や交付金が出ている間は実施するのですけれども、なくなったらしぼむのです。経済あるいは観光の振興策と、これが町に就くということをしていると思いますので、補助金がなくなっても将来的に独立して展開して自主的に外貨を稼げる、そういうイベントにするのかどうかということです。そういう形にあるべきだと思うのです。このロングランイベント終了後の自立、独立した政策展開はどうなるのでしょうか。これは担当者からではなく理事者から政策としての位置づけを明確に答弁願いたいと思います。

次に民間活力ゾーンについてです。今日も説明がありましたが、ロングランイベントも関係します。北海道が民間活力を導入して、民間活力導入区域で実施すると言っているのです。町民から私のところにいろいろと電話が来るのです。町にも電話入っていると思います。民間ゾーンに白い建物が2つ建っているのです。あれは何の目的で建っているのか。誰が運営しているのか。どういうことをされるのか。まずその経緯について伺います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） まず、インフォメーションセンターの関係でございます。単純に6月の物販等の売上げだけでいきますと267万円程度ございまして、4月、5月はコロナの影響で物販関係についてはほとんど収入としては芳しいものではないという状況になっております。ただ、5月28日に開業していますけれども、そこからの流れで言いますと6月だけで267万3,751円という数字になっております。もともと指定管理の部分で予算もいただいている中であっては、おおむね指定管理料としてかかる経費として1,800万円程度、そのうち使用料収入などが180万円程度で、実際の指定管理料は1,600何がしという数字で進めるということでお話をさせていただいているかと思えます。そういった中で、例えば人件費であれば70%が指定管理料、それから自主事業で30%、また管理費、供用部分などにつきましても73%と27%とに分けて、指定管理料と自主事業の部分は明確に分けております。そういった中では、4月、5月について先ほども申し上げましたが、今の

段階ではなかなか売上げが進まないということですので、ここの部分はおそらく今の段階では崩れているということになるかと思えます。ただ、年間を通しての7割、3割という部分は町がそこを基本的に補填するという考えではなく、今後の自主事業、経営努力によって賄っていただくというのが現在の考え方でございます。

ロングランイベントについては、今回やはり開業に合わせて駅北地区の賑わいを創出するためにも、何とかロングランイベントで我々も頑張っていこうということで、予算も頂戴しながら進めているところでございますが、この後でございます。独立した事業として展開するか、外貨を稼ぐ取組をどのようにしていくのかということでございます。今年は開業年ということで町がある程度イニシアチブを取りながら、ロングランをこういう形でやらせていただいておりますけれども、このインフォメーションセンターについては出店スペースですとか、そういったものへの各民間事業者のご協力、あるいはそういった自主的な取組を持って賃料といったものを観光協会で稼ぎ、かつそれぞれまちの事業者の皆さんがそこでまちの魅力あるいは自分の商品をPRして、販売していただくことで町内外に対してPRし、あるいは外貨を稼ぐという取組が進められていく形になっております。今後においては、あくまで指定管理者を中心にそこが一般出店などを募りながら町内事業者と連携しながら賑わい、あるいは外貨を獲得していく。基本的には自主的な部分に手当をしていく、活動をしていくということによって予定しているところでございます。

それから、民間活力ゾーンの関係です。白いテントは当初、大きいものが2棟建っております、どうしたのかというお話がありました。あくまでこれは北海道で現在予定ですと8月31日までということになっておりますが、その中で各新聞等にも出ておりますし、先ほどの説明にございました内部での体験や、あるいは白い建物の間に黒い店舗もございましてけれども、それは室蘭のうずら園さんが来て産物を売るということになっておりますので、基本的には北海道が賑わいの広場という形で活用するためのテントスペースということになっております。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） ロングランイベントも含める政策的な考え方についてです。先ほど課長からご説明させていただきましたけれども、補助金がある部分としてのイベントについては財源があって進めていけるということはあるかもしれませんが、補助金等がなくなった場合に自らの力でお金を使いながらイベントを進めていくということは大事なことであり、民間活力としてはそういった部分がなければ、なかなか継続してはいけないかと思えます。その中で町が政策としてお互いにやっていたりする施策を組み合わせながら、また民間の方の力を借りながら、イベントを進めて駅北の部分についての活力をどのようにやっていくかということは検討しながら進めていきたいとは考えております。

○委員長（広地紀彰君） 6番、前田博之委員。

○6番（前田博之君） まず最初に北海道の施設、建物についてあそこは町有地です。いつ、どういう形でそこに建ったかということの時系列で説明してほしいのです。そして、町有地ですし、いつ建って、誰が決めて、賃貸料も出てくると思いますが、契約期間はどうなっているのですか。具体的にどうなっているのですか。これは町の財産ですから。なぜ聞くかといえば、一切議会に報告がないからです。担当課長が町にも町民から問い合わせが来たと今いみじくも言いました。我々

も何にも分からないのです。その答弁にまた質問しますが、足りなければ質問を許してほしいです。

それと同じく民間活力ゾーンについて、令和元年の11月29日に説明しているのです。今後の方向性を幅広く検討すると言っているのです。しかし、今日の説明を受けた後に全く進歩がないのです。現在までの方針確定には至っておらず、賑わいの創出を図るために民間活力導入区域の事業者の誘致に努めてまいりますと言っていますが、11月以降から今日までどのような活動をしてきたのですか。ここで言っている民間活力導入区域に事業者を誘致すると言いながら、北海道がここの中に施設を建てているのです。その施策の整合性はどのように取られて、このような処置になっているのですか。北海道が一生懸命進めていくことに対しては否定していませんから。あくまで、町が政策形成の中にどういう流れの中でこういうことがあったということが、一切議会に説明がありませんので、これは明らかにしておく必要があると思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） まず、北海道の白いテントの関係ですが、今年に入りまして財産貸付という形で北海道との間で締結をさせていただいております。基本的には4月1日付で9月30日までの6か月間という形になっております。そういった中で、白いテントが建ったのが当初ウポポイの開業が4月24日で行ったので、その1週間前に北海道がそこに白いテントを仮設ですけども置いております。その後の事業の内容については、基本的には北海道に貸付けを行っておりますので、北海道が事業内容を検討し実施するという形にはなっておりますが、合間というところで当然、進捗は町の担当も確認をしながらやってきました。なかなか正直、我々も北海道が実施する事業について、そこまで踏み込んで確認をするなどという部分はしておりませんでしたので、ただ今回、開業が間近になってきて、それぞれ我々もこの時期からロングランイベントを開催しなければいけないだとか、そういった部分があったときに内容の確認などを詰めて話をしながら今日に至っているという状況でございます。

民間活力導入ゾーンの関係につきましては、昨年の2回のプロポーザルが不調に終わったことも含めまして、抜本的な部分の検討も内部では進めてきております。冒頭の担当からの説明にもございましたけれども、11月1日にそういったリース会社という形の部分も含めて可能性のある企業21社に資料提供をして、このように町では考えているという部分を提供させていただいて、少しでも突破口を開きたいという取組はしてきたところでございます。その後、年が明けて個別にリースだとか、そういったものをしてたらどうなのだろうかということございましたけれども、民間活力導入地域は行政整備区域ということで、民間活力導入区域という現在の計画の中にあってはリース方式でいったときに、なかなか町が思い描く行政負担がある程度どうしても出てしまうというのが現在までの我々が考えてきた中ではございます。そういった意味では現在、ここを行政負担が一定程度重い負担になるものですから、それをよしとしてリース方式にしたらおそらく形にはなったのかと思います。建物を建てていただいて、器ができると。ただ、それがしっかり根づいて、継続してここから将来に向けて発信していくためという部分で、なかなか先ほど申し上げましたが重い行政負担があるだろうという中であっては、このリース方式についてもいま一度、再考が必要だということになっております。私、4月に移動して参りまして、なかなかコロナの関係もございましてというところはありますが、そういった部分も抜きにしても、担当からもありましたけれども、

現在は出店意欲の減退、我々が今支援しているのは現状、毎日生き抜くためにこれまでの補正予算を頂きながら支援しているということになっております。そういった中で駅北の地区に新規参入、投資するということは何回もいろいろとあたりましたけれども、現状は厳しいということもございました、そういった中で内容も当然そうなのですけれども時期の見極め、そういった部分も含めて再度検討をさせていただいているという状況でございます。結果的には一つも進歩していない、あるいはもしかすると後退している状況になってしまっているかと思いますが、今回駅北地区で北海道がこういった賑わい創出のイベントを少し実施していただいているところも含めて、いろいろな部分の支援を頂きながら、ウポポイの認知度向上それと動員の状況、そして白老の資源、魅力の発信をして、我々がどのようにしてもやり遂げるといふ気持ちの中では、今後も継続的にこの部分についてはしっかり取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 6番、前田博之委員。

○6番（前田博之君） 今いろいろとありましてよく分からないのですが、私が聞いているのは今後どうするかということが見えていないということなのです。今後どうしていくかということです。いまだに一括方式を検討し進めてきたけれどできないと、現在はまだ方針が確定になっていません。それが、前段の今の説明かも分かりませんが。これまでの議会の説明、そしてウポポイと相乗効果を出すための経済振興策が大きな位置づけになっています。ここにきて方針確定に至っていないことは非常に後退していることです。これは間に合いますか。もし問い合わせが相手から来たらどうするのですか。これは、いつまでに方針決定しますか。そんな曖昧な中で北海道が施設を建てています。そういう整合性もあるのです。まず、それが1点です。

それと、北海道で建ててくれた施設、私は北海道が前向きにやっていたと聞いてくれたことに対しては私達も評価しますし、裏を返せば白老町が足踏みをしているので北海道としても賑わいを出すために一刻も早くしないとイケないということで、北海道が行動力を起こしてくれたと私は思っています。それに対しては否定しません。今の段階ではぜひ実施してほしいと思います。ただ、あそこは白老町として都市計画を決めているわけです。担当課長は北海道がやっている事業であったから今まであまり関与していないという言い方をしました。あそこは町有地なのです。町有地のときに町として観光商業ゾーンとして使うと、その中であって北海道がしてくれるというのはいいと思うのです。私はどのような整理をされているかということを行っているのです。今言った民間の方が出てきたときに、あそこに支障が出てきたらどうしますか。まだ、方針が確定していないから遠慮してくださいとなるのかどうか分かりません。その2点なのです。時間もないので言いますが、私が調べたら北海道は8月までにあそこを撤去するという条件になっています。きれいに撤去していくのですか。昨日かおとといの新聞報道を見ると、別の使い道みたいになって報道されていますけれども、その辺がどうなっているのか伺います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 整備の方針の見直しをしなければいけないということは我々も検討しているということでございます。ただ現状は生きているのは、あくまで駅北観光商業ゾーン基本計画というのが基本的にはその考えの基本にはなっております。ただ、なかなか今の状況では、2回のプロポーザルの結果も踏まえて、再度いろいろな部分は考えていかないとイケないだろうと

ということで、言葉は方針の決定には至っていないという言い方にはなったかもしれませんが、基本的にはこれに基づいてどうにかできないかというのが基本的な考え方でございます。変えるということになれば、議会の皆さんにもお話をさせていただいて、こういう方向でいきたいということを変更してお話はさせていただきますが、現時点でこれがいいのか悪いのかは別として、まずは基本的にあるものを基本にやっていくということで進めてまいりたいと思っております。そういった中で北海道の部分についても、基本的には北海道に貸付けをして、その内容について我々がという話もございますが当然、一緒にやっていきたいという部分もございます。そういった中ではいろいろな手法を参考にさせていただきながらというところもあるかと思っておりますので、この議論も1年も2年もかかってようやく昨年整備の方針が決まっていますので、基本的には整備方針をしっかり守ってまいりたいと思っておりますが、そこに何か一工夫ですとかアレンジという部分、あるいはよりよくなるための考え方はないのかということは今考えているということでございます。

今、急ぎ来ていただいた場合どうするのかということでございますが、基本的にはプロポーザルを行って提案を受けてということになっております。打診ということになりますけれども、そういったものをいただいてそれが我々もしっかりこの後、将来にわたっていいということであれば基本的にはこれまでの考え方に基いて、再度プロポーザルをさせていただいて、審査をかけて進めていくということになろうかと思っております。決して今までお示ししている計画を撤回するとかそういうお話ではなく、内々ではいろいろな方策がないかということを考えているということでございますので、はっきりと言えるのはあくまで整備ゾーンの基本計画に基づいて進めてまいりたいということでございます。

○委員長（広地紀彰君） 6番、前田博之委員。

○6番（前田博之君） 新聞報道で北海道が固有名詞を出して使うことになっているのだけれど、その辺はどういうことになっているのかということです。

○委員長（広地紀彰君） 暫時、休憩いたします。

休憩 午前11時02分

再開 午前11時15分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じまして、委員会を再開いたします。

それでは、答弁からお願いします。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 北海道に貸付けを行っている土地の取扱いでございます。先ほど来お話が出ていますとおり、8月31日までは北海道が事業を行うことになっております。基本的にはその後は更地にして9月30日までに撤去していただき、町にお戻しいただくということでございます。

○委員長（広地紀彰君） 6番、前田博之委員。

○6番（前田博之君） もう1点、質問があります。先ほどの民間活力ゾーンの富川課長の答弁は分かりました。現状の開発計画の方針のとおり今のところやっていきますということです。しかし、将来どうするかということには考えますと言っていますが、それはいい、ケース・バイ・ケースだ

し流動的だからどうする云々とはならないと思います。ただ公的に議会に資料が出ているのです。一括リース方式の検討を進めてきたものの現在までに方針確定がなされていない、これをどうするのかと聞いているのです。これは決まるまでは現状のままでいくでしょう。これはいつまでに決めて何をしたいのかということを知っているのです。それを答弁してください。

それと、北海道の施設の部分については分かりました。9月までに撤去して更地にする。それはそれでいいのですが、一つの方法として今議論している民間活力ゾーンに建っています。そのことも考慮すべきですけれども、もしこの施設が本当に地域のあの中での景観に合致して利用できるものであれば、白老町として施設や建物を北海道にお願いして、逆に撤去しないで町としてある程度あの部分を利用させてほしいという部分も出てくるのではないですか。どのように事業展開をするのかは分かりません。あの中で熊の木彫りの実演をするとか、白老町は昔からそういう歴史があるわけです。そういう部分をほかのほうにも声をかけて全体で利用するなど、逆に北海道と協議してあの施設にお金をかけて撤去するのであれば、当面何らかの形で利用できるということはこの民間活力導入区域の中できちんと位置づけをして、そして整理をして活用するというのも考えられると思うのです。条件ですから撤去するなら撤去してもいいのです。もっと白老町としても北海道に対して、そういうこの民間活力ゾーンをどう使うかという企画書くらいつくって北海道に働きかけるくらいの政策形成をしたらいかがですか。撤去するなら撤去してもいいです。今、聞きましたら結果的に北海道がするからいいのだとあって、白老町は認識していないのです。北海道にこれまでしていただいているのに。白老町はそれを活用する手はないのです。活用すべきだと思います。その2点を聞いて終わります。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 一括リース方式についても内部では、多様な方法については検討を行ってきたという部分ではございます。先ほど来、繰り返し申し上げておりますが、基本的にはこれまでの方針をそれに基づいて進めていくということが基本にはなっておりますが、なかなかそれだけでは上手くいかないという現状も当然あるかと思えます。そういった中では、基本方針を変えるという前提ではなく、例えばこうすればどうだろうかということで、一括のリース方式の検討も進めてきたということではございます。何度も同じ答弁で申し訳ございませんが、基本的には整備計画は今提示している内容が基本になるということではございます。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 私から北海道の部分についてお答えしたいと思います。先ほどからお話ししていますが、基本としては計画という部分がございます。これに基づいて進めていくということになりまして、今はコロナの影響をすごく受けており、ウポポイそのものの開設も2回延期されています。それからそこに新店していただける企業についても、自分のところをまずは守らなければならないということで、新しいところにはなかなか来ていただけないという部分も実際にあります。そういったことも含めて計画を変更するというのではなくて、これからどういったことが一番いいのかということも含めて検討していかなければならないと思っています。

それと、北海道の建物の活用については北海道と全然話もしていませんので、そういったことが可能かどうかということもお答えはできませんけれども、こういった活用ができるかできないかと

いうこと。新たな手法がどういうものが取れるのか、そういうことも考えながら計画は計画として、もしその計画そのものでないとなれば議会との報告やご相談というものはしながら進めていきたいということでございます。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員からの質疑をお受けします。

10番、小西秀延委員。

○10番（小西秀延君） 駅北ということですが、少し外れてしまうかもしれません。北海道のキャンペーンの資料もいただいているので、北海道のキャンペーンはオープンの日から9月30日までということで内容には券を使って、このキャンペーンを利用するというので、年間パスポート等の利用でできるとなっています。私たちも年間パスポートを申し込んでおりますが、まだ手元には町民の方にも届いていないと思いますし、どのようにするかという周知がなかなか広がっていないかと思えます。その辺の確認をさせていただきたいのですが、どのようにしているか説明をお願いしたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 笹山アイヌ総合政策課長。

○アイヌ総合政策課長（笹山 学君） 年間パスポートについてでございます。7月の広報でも周知させていただきました。ウポポイの開業後、準備が整い次第順次発送させていただきますということでご案内させていただいております。12日開業予定で、13日以降に準備しておりますので順次年間パスポートを発送する予定でございます。内覧会のときに年間パスポートを申し込んでいない方につきましては、町民の無料化ハガキも合わせてお送りいたしまして、そちらについては1回の無料券、もしくは年間パスポートの引換券として使っていただく形になります。年間パスポートの申込みにつきましては、役場に来ていただいて申し込みいただくということになっておりますので、ご理解いただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 10番、小西秀延委員。

○10番（小西秀延君） それまでは、早い方は例えば入場を申し込んで、利用券で使ってしまうとその後は年間パスポートを申し込めなくなってしまうのですか。

○委員長（広地紀彰君） 笹山アイヌ総合政策課長。

○アイヌ総合政策課長（笹山 学君） 1回無料券を使って、それで申し込んだ方についても、1回だけではなくてもう1回見たいということであれば、年間パスポートを申し込むことは可能でございます。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今のお話は基本的には年間パスポートを持っていらっしゃる方については、いぶり・ウポポイウェルカムキャンペーンは対象店で年間パスポートを提示していただければ、そのサービスを受けられるということでございますので、当日券だけをお持ちの方がそこで回収はおそらくされないかと思えますので、今日行ってきたよということで当日券を見せていただければ同様のサービスを受けられるという状況かと捉えております。

○委員長（広地紀彰君） 10番、小西秀延委員。

○10番（小西秀延君） そういう意味ではなくて、まだ年間パスポートは手元にないわけですから、オープンの日に見に行こうとして申し込んでいる方は、町民は1回見られる券を使うとすれば、

それを使ってしまうと年間パスポートはもう取れなくなってしまうのか。1回そちらを選んでしまったということになるかと思うのですけれども、その辺の整理がどのようになっているのかをご説明願いたかったのです。

○委員長（広地紀彰君） 笹山アイヌ総合政策課長。

○アイヌ総合政策課長（笹山 学君） 先ほどもお答えしたつもりだったのですが、ハガキは開業後に発送ということで13日以降に発送を予定しております。それが届きましたら、例えば1回見たいという方はハガキを持って行っていただいて入場することができます。それで、ハガキは回収されてしまうのですけれども、やっぱりもう一度見たいという方については役場に来ていただければ年間パスポートの受付も可能でございますので、1回ハガキを渡してしまったら1回だけで終わってしまうということではなくて、複数回見たいというお気持ちに変わったのであれば、年間パスポートも申込みが可能でございます。

○委員長（広地紀彰君） 10番、小西秀延委員。

○10番（小西秀延君） オープン後に発送されるということですから、インターネットで申込みとかをするのでしょうか、その場合は料金がかかって見なければいけないということで理解してよろしいのかどうなのか。

○委員長（広地紀彰君） 笹山アイヌ総合政策課長。

○アイヌ総合政策課長（笹山 学君） オープン日に関しましては、見たいという方はお金を払って見ていただくことになります。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からありませんか。

なければ、追加で2巡目にうつりますがよろしいですか。

〔「よろしいです」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、1巡しましたので、これから2巡目の質疑をお受けします。

4番、貳又聖規委員。

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又です。ロングランイベントについてです。こちらの考え方は、より多くの町民の方々に関わっていただくことが非常に大事だと私は考えております。その中において、虎杖浜の越後踊りの保存会の皆様の関わりがイベント内容の中に7月12日から8月以降までありますが、そういう中で伝統の面を発信する機会が考えられているのかというのが一つです。

それから、北海道の事業の中で刺しゅう体験等の実施というところがありますので、町のほうでどれだけ把握しているか分かりませんが、ここの部分でお聞きしたいのです。まちとしては巨大パッチワークづくりを進めてまいりました。町民でいくと女性の皆様もそうですし、小学校等にも関わっていただいておりますので、私が想定するに町民の方々は500名以上の関わりがあると思っています。全道規模で布を募集してつくった作品もありますから、そういうことも含めると町外の道民の方々の思いも踏まえると200名くらいあるのかと思います。その中において、巨大パッチワークは一住民がお客さんをおもてなしするということで作られてきたものですが、7月を迎える中でパッチワークのお披露目が考えられているのかどうかをお聞きします。

今、本町の観光産業、これは一つ今まではミンタラ、民芸店、お土産屋がありまして、基幹産業を支えてきたものでございます。実際に手工芸品である木彫り熊を扱っている町内の店舗というの

はまだ大きくは4店舗くらいあるのかと思います。山田民芸や協業民芸、高橋民芸店、荒井工芸店等もあります。そういった白老町内における手工芸品を扱っている皆様の発信の仕方は、実際には駅北インフォメーションセンターの中には個店ごとには入っておりますが、白老の歴史を支えた木彫り熊ですとか、そういった手工芸品の考え方がこのイベントの中に反映されているのかどうか。イベントの中に反映されつつ、定版的に定着させる考えがあるのかどうかを確認させてください。

大項目4の周辺環境についてでございます。7月12日のオープンを迎えた中で大型バス、それからかなりのマイカー利用者が来る中で、駅北インフォメーションセンターの駐車場があふれることになるかと思えます。そういうことも想定されるかと思えます。大型バスの第1、第2駐車場があり、そこにはウポポイの職員の皆さんに貸し出している臨時駐車場あります。一般のお客様は駅北インフォメーションセンターの駐車場に停められなければこの辺の周りを探します。そうすると、職員駐車場に行くトラブルなども考えられるかと思うのです。白老町においていうと港まつりや牛肉まつりのときに駐車場を設けてシャトルバスで誘導することがあります。実際に7月12日から町民の方々の生活道路がかなり混雑することがありますので、それについての対策の考え方を質問いたします。

○委員長（広地紀彰君） 4点ございましたが、随時回答を求めます。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） ロングランイベントに関係して、越後踊りですとか巨大パッチワークのご質問かと思えます。まず我々も冒頭申し上げましたとおり、7月12日の開業が決まって、急ぎどういった事業者の調整というところがあり、7月中については一定程度、野菜だとかそういったものにターゲットを絞って調整させていただいております。今決まっている中では8月1日、2日に社会福祉協議会のご協力をいただいて笑顔まつりですとか、そういったものをお願いいたします。基本的には10月の中旬までということの内容については委員がおっしゃった内容も検討させていただいて、おそらくいろいろな白老の資源というのも多分がございますので、全てを拾い上げるというのはなかなか難しいかもしれませんが、多種多様なご理解がいただけるイベントにしていきたいと思いますのでございます。

木彫の関係でございます。木彫については先ほど来お話がありましたが、北海道のほうではそこを取り上げていただいているという中で、我々のイベントの部分について木彫を外出ししてやるかどうかというのは現状ではあまり考えてございません。先ほど委員がおっしゃったように、ここはインフォメーションセンターの中に少なくとも2業者が入って展示、販売しているということもございますので、まずはそこでの需要といいますか商品ということで、皆さんにお手にとっていただけるといいのかと思っております。定着という部分については、白老でずっと旧ミンタラといった部分があった中で、中には木彫のお店がずっとあってというのが私も幼少時の原風景として持っております。こういうアイヌの拠点という白老町にこういった再スタート、きっかけがございますので、それぞれの時間をかけて築き上げてきたものについては、将来にわたって継続される手立て、方策については考えていけないのだろうと思っております。ただ、それを行政がするのか民間にさせていただくのかというのは、方法についてはいろいろあるかと思えます。

駅北インフォメーションセンターの前の駐車場でございます。今回は7月12日の開業は2,500人

が上限という形での一定程度、制限のついた状況ではございます。それでも駐車場のキャパシティとしては充足しているかというとなかなか自信を持って充足しているという話にはならないのかと思います。どこの観光地もそうですけれども、週末ですとか祝日、あるいは長期休暇の際についてはいろんな部分で駐車場を探す、あるいは周辺の渋滞というのはございますので、そういった部分があらかじめ予想ができる範囲かどうかというのは、我々もつかみかねているということでございます。道路管理者、あるいはアイヌ民族文化財団、あるいは観光協会のそういった部分でどこがどうイニシアチブを取って、それぞれの施設に対してどう誘導していくかというのは今後、交通の渋滞ですとかそういったものを見ながら対応策については考えてまいりたいと思います。ただし、事故があっては困りますので、あらかじめそういった部分の方策協議については進めてまいりたいと思っていますところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 補足といいますか、渋滞の対策の部分で関係がありますので答弁させていただきます。北海道開発局、それから北海道建設管理部、白老町それからアイヌ民族文化財団、ネクスコ東日本と合わせまして渋滞対策をこれまで数十回ほど協議させていただいております。前も議会の中で答弁させていただきましたが、苫小牧方面から来たときに高速道路につながるほうの道に誘導するという事で対策されておりますし、アイヌ民族文化財団からお聞きしているのは誘導員をかなりの数をつけて誘導していくということもお聞きしております。ただし、それでも渋滞は起きるとは思いますけれども、そういう対策をしつつ町民生活にも影響が出ない形をとらせていただきたいと思いますところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 4番、貳又聖規委員。

○4番（貳又聖規君） まずロングランイベントの関係でございます。越後踊りの保存会の皆様や巨大パッチワークの関係している町民の方々、そして私は6月会議に一般質問もさせていただきましたが、例えば漁業協同組合女性部のPRする場ですとか、その辺も含めてなのです。越後保存会については町のほうで今まで例えば盆ダンスですとか、そういった取組も力を入れて参加している皆さんの思いがあってきていたものであります。何が一つの目標であったかということと2020年に合わせた取組であります。巨大パッチワークも同じです。2020年のオープンに合わせた目標を持った取組であります。それには町民の皆様の汗があります、それだけ関わっていただいた方の汗、努力がありますから、そういったことを2020年このオープンの期間はなかなか調整が難しいと思うのですが、7月が無理であれば8月には何かそういった今までの町民の皆様のお力を借りて進めてきたプロジェクト、これを実現させることがまちとしても必要なかと私は考えておりますので、それについてもう一度見解をお聞きします。

駐車場の関係でございます。実際に大町商店街、新規の店舗等も出てきています。スイーツの関係なども進出していただいて、今それだけでも口コミでお客様が並んでいる状態です。ウポポイは1日に2,500人の入場制限があったとしても、現在でも観光インフォメーションセンターには一般のお客様が来ているわけです。ウポポイがオープンしていなくても来ているわけです。その皆さんは何かというと駅北インフォメーションセンターとして、白老のお食事どころなどを聞いたりしているものですから、ウポポイを軸にした交通渋滞対策の在り方、これも本当は大事ですけれども、

町内を周遊させる回遊させるためには、お客様には商店街を歩いていただく動線づくりも必要です。歩いていただく動線づくりということでいくと駐車場スペースがなければならぬわけです。そうすると商店街の中にも駐車場がありますから、そこを円滑に回していくことをしていかなければ、町民の皆さんの生活道路の役割もありますから、これは非常に混雑する混乱する状況になるのかと思います。ましてや今後は海外のお客様ももしかしたらレンタカーで来るだとかとなると、交通のルールもなかなか浸透していないという中で受入れはこれからだと思うのですが、そういうことも想定すると上手くどういかにお客様に駐車スペースに車を停めていただいて、町なかを歩いていただくかという動線が必要だと思いますので、その点についてもう一度深く聞きたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 町内にいろいろな資源がありまして、我々もロングランのイベントの中では多様なエッセンスといった部分からの検討がきっと必要なのだろうと想っているところでございます。そういった中では越後踊りですとか巨大パッチワークづくり、あるいは漁業協同組合の女性部、どういう場面でのご活躍をいただけるかという部分については十分に検討してまいりたいと思っております。このロングランのイベントを行うに当たっては、原課のコロナの感染予防対策というものが非常にデリケートな問題で私たちも頭を悩ませているところでございます。例えば町内会ですとか、そういった部分でも現在盆踊り自体を中止する、しないという検討もされていることも伺ったりする部分もございますので、そういった中で人との接触を呼びやすい、あるいは集めてやらなければいけない事業といった部分については少しどうなのだろうかということがあります。それは時期を見定めてということが一つ条件になってくるかと思っております。飲食の関係についても同様です。飲食をするとイベントとしては白老でいいますと牛肉まつり、港まつりもそうですけれども、豊富な食資源の飲食を目指して多くの方に来ていただくということで、本来は飲食、漁業協同組合の女性部にやっていただいたりとかというのも思っているところではあります。なかなかそれを今活用して人を集めてごった返しの状況をつくるのがいいのかどうかというところは、様子を見ながら行うことも含めて現在は検討の中には含めさせていただきたくて思っております。

パッチワークの関係は、逆に2020年に合わせてということでございますけれども、その取組については内外から評価をされていると認識しております。フェリーターミナルなどでも2月から5月においてはウポポイのPRということで、そういったものも苫小牧のフェリーターミナルに掲示されていたということもございまして、今年度においてもパッチワークを体験するという商品メニューということも検討しているということでございますので、そういった中で広く見たり体験したりしていただく機会を用意していきたいと思っております。開業に合わせていっきに今どうこうというのは今段階では申し訳ございませんが用意していないというのが現状だと思いますので、そういった中で多様な機会を求めてまいりたいと思っております。

駐車場の関係については、あり過ぎて困るということはきっとないのだろうと思います。先ほどおっしゃったように大町の商店街でも1店舗新しい店が出た段階で土曜日、日曜日ですと人が並んでいること、それと駐車場が路側帯も満杯でいろいろなところに停めて皆さん店に行かれていますという状況も拝見しております。それが駅北側のウポポイを開業したときに、どうなるのかということ

非常に大きな課題だと思っておりますので、町なかの公共駐車場の整備といった部分が軽々しく、検討しますということもなかなか言えないのだらうと思うのですが、そういった多様なお客様を安全に迎える環境づくりについては町としても長期的な考えの中では検討してまいりたいと思っております。現在は急いでここに駐車場をつくりますということにはなりませんので、できる限りの安全対策そういった部分を共有しながら進めてまいりたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 4番、貳又聖規委員。

○4番（貳又聖規君） 最後の質問です。今の富川課長の答弁は分かります。オープンを迎えるに当たって、まちとしての思いをいかに表現するかが大事だと私は思うわけであります。厚真町で地震があって、震災復興のためにNHKのおかあさんといっしょを呼んで、パブリカのコンサートが開催されたときに会場がごった返したのです。そのときに私は職員の皆さんにお願いしますというわけではなくて、職員の皆様が誘導員になって動いていた、そういう思いに来場者は感動するわけであります。富川課長の答弁の中では、人が混み合う中で呼び込むイベント展開が非常に難しいということは分かります。安平町のデゴイチステーションを最近見たのですが、何もイベントがなくても駐車場はすごいお客さんが来るわけです。ですから、コロナの関係でなかなかそういうことはできないと言いつつもお客様は来ます。ウポポイに入れないお客様も今白老はどんなまちなのかと来ます。そういったときには駅北には必ず来ると思うのです。その辺は混み合う3密を避けるイベントは難しいと言いつつ、私はまちとしての思いが大事だと思いますので、少なくとも越後保存会の皆様の声を聞いて7月から9月の間にどこかの部分でお願いしますという、まちが主導権を握ってイベント展開を考えるのではなくて、関わった方々の思いを一度聞いてほしいと思うのです。巨大パッチワークも同じです。巨大パッチワークは何も町民の皆様がそこにいなくてもいいのです。一つの作品ができていますから。それを外から来るお客様に発信するという意味では、逆にコロナ禍の間では効果的な発信かと私は感じております。そういう意味から私は観光の取組はアイヌ総合政策課、それから経済振興課で担当していますけれども、これは本当に職員の皆さんも意識を持って迎え入れるということが、そういったところの思いだとか姿勢がいろんなところに町内外に伝播するものだと思うのです。そういう意味から担当課長の答弁は分かりました。理事者にその部分で回答を求めます。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 理事者ということですが、先に私から答弁させていただきたいと思っております。先ほど来、個別の団体2、3出ておりますが、ここで我々は町全体の事業を進めるなかにあっては多様な団体、あるいは資源というものを活用させていただきたいと思っております。おっしゃることは十分理解できますし、承知します。我々もそこに対して熱量をしっかりと持って取り組んでまいりたいと思っております。本当に今コロナとどれくらいのバランスでいけばいいのか、こういった内容がいいのかということも含めて、いろいろな団体とはお話をさせていただきたいと思っておりますが今名前が出ている個別の団体をここで入れます、入れませんということは、ここではご答弁は差し控えさせていただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 職員の思いの関係でございます。ウポポイも日曜日には開業する、それ

と合わせて駅北の部分についても、それぞれイベントが行われる、そういった中で町の職員としてこういうことに関わっていくかということは、それぞれに思いがあると思うのです。町としては積極的にまちとしての財産ですから、職員それぞれの考えの下で関わりをしていかなければならないということだと思います。そういった中で町外から来られるお客さんに対して、白老に来てよかったと言ってもらえるように職員全体、一丸となって取り組んでいきたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 4番、貳又聖規委員。

○4番（貳又聖規君） 竹田副町長の答弁がありました。私は町職員の個々の思いや、それはもちろん皆さんがそれぞれ持っています。そうではなくて白老町役場として組織なので、組織としてどう動かすかなのです。厚真町の例を出しましたけれども、それは厚真町のトップがこれは今我がまちの復興のために町職員一丸となって対応しようという形での受入れです。それが今回7月12日に向けて時間的には難しいのは分かります。ですが私が主張したいのは理事者の思いがあって、それを白老町役場として動かす取組を求めたもので、その辺の答弁がなかったものですから確認をさせてください。

○委員長（広地紀彰君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 全体的に職員関係の部分について私が担当しておりますので、その関係からご答弁をさせていただきたいと思っています。委員も御存じのとおり、今回の民族共生象徴空間の関係については長い歴史があって明日は記念式典、そして明後日に開業というところまできております。アイヌ民族に対する様々な関係性も含め捉え方も含め、いろんな山坂がある中で世界的にここに民族共生という一つの大きなスタートが始まると、そのことはこれまでも町職員を含めて、ただ単に経済効果をどうするかということのみならず、しっかりと自らのまちの歴史も含め、そしてアイヌ民族がこれまで歩んできた歴史と文化の在り方も含めて、それぞれの形で町職員が勉強しながらやってきました。ただ、そここのところは一人一人ということではなくて、町が今このように民族共生象徴空間をつくり出す、そういう元があるゆえに町長を先頭にして様々な形で勉強も含め、それからどうしたら皆さんにアピールできるのか、ポロシャツのことも一つはありました。ストラップの関係もあります。そういうことも含めて、これまでいろんな形の中で取り組んできました。ですから、今ここでオープンということになったときに、しっかりと立ち位置を持ちながらこれまでも話が言葉として出ているように、どのように町外から来る人たちにおもてなしの心で迎えられるか、そここのところは町職員一同、本当にこれからただ単にウポポイの関わりだけではなくて、町職員としての仕事も含めて進めていかなければならないと思っています。大事にしなければならないことは経済振興のみならず、これまでのアイヌの民族が歩んできた歴史と文化をしっかりと身につけて、そして利害を含め活用を図れる職員を日常の中、研修の機会を含めて育てていくことが一番白老町にとって求められていることではないかと認識をしています。また、それを足場にして今後も様々な観点で職員育成という部分もそうですし、経済的な部分もそうですし、観光というスポットのところからも、そういう様々な形で皆さんの思い、先ほどから出ている越後踊り保存会の方々、パッチワークだって初めは小さなところからもっともっととお互いに広くつくりだしで、つないでいこう、結んでいこうということがあったわけです。その辺のところをしっかりともう一度、再確認を図りながら町として前に進めていきたいと、町長含めてやっていかなければなら

ないと認識しております。

○委員長（広地紀彰君） ただいまの貳又委員と町側との質疑の中で、様々な真摯に交わされた中で、コロナ禍にある中で難しい立ち回りを求められており、また職員の意気込みや迎え方といった部分について真剣な質疑が交わされたと思うのです。私ども議会としても大変な状況の中で迎えることや、ピンチの中でチャンスを迎える状況だということは十分理解しているつもりです。ただ、この中で例えば巨大なパッチワークは白老駅の自由通路で掲示をして、臨時改札口から出てきた観光客を含めた皆様に将来的には国外のお客様もお見えになると思います。そういった密にならない対応も取って、あらゆる形でアイヌの伝統的な文化を発信していく、また私たちのまちが目指す共生、共創のまちづくりを発信していく部分の取組を追求していくということは、貳又委員のご趣旨なのかと承りながら伺っていたのです。自由通路の活用はあくまで一例ではありますが、そういった追求がこれからまちづくりにも求められていくと考えますが、その辺りについて改めて伺いになってはいかがかと私としては所感を持った次第です。

では、ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ご意見なしと認めます。

それでは、最後に5項目めのその他についてあります方は、どうぞ。

12番、長谷川かおり委員。

○12番（長谷川かおり君） 長谷川です。こちらの白老駅北観光商業ゾーン周辺図で地図があるのです。若草町の住宅地とウポポイの駐車場があります。その間の道路がポロト湖の突き当たりまできれいに整備されていて、左に曲がると今までどおりのポロト湖畔の道なりになって、車がやっと1台通る幅なのです。私も日曜日にここの通りを通りましたら、ほかの車も勢いよく湖に向かって走って行って、私は地元の間人ですからゆっくり行っただけですけども、ちょうどポロト湖から帰ってくるところの車とぶつかりそうになったといいますか、鉢合わせになったのです。立て看板とか左側に行くと道が細くなりますとか、そのような案内図があったほうが今後町外からいろんな方が来ますので、ウポポイのほうからインフォメーションセンターが見えますが、そこに行ってみようというときに車と車が交差して渋滞し、または交通事故に遭う、そういう場面もあると思いますので、ここは町の管轄だと思いますから、何か対策を考えていただけないでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 委員がおっしゃったとおり、ポロト公園線につきましては今回ウポポイ開業に合わせてインフォメーションセンターの入口付近まで整備をさせていただきまして、その後のインフォメーションセンターからビジターセンターに向かう道路ということになるかと思いますが、なかなか拡幅というのはやはり難しいと思いますので、建設課等と相談しながら例えば徐行していただくとか、そういった注意喚起をする看板の設置について検討させていただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の質疑をお受けします。

5番、西田祐子委員。

○5番（西田祐子君） 5番、西田でございます。まず、1点目が今ほどの話ではないのですけれ

ども、大型バスの第2駐車場があります。あそこの浜側のほうに駐車場ができました。ここには何も書いていないのですけれども、例えば大型バスの第2駐車場というのであれば、国立アイヌ民族博物館のエントランスのところで降ろして、そしてバスだけが行くというのは分かるのですけれども、大型バスの隣のほうに駐車場ができていたようですので、もしそこのところを使うとしたら、そこで乗り降りする人たちはどうやってこのアイヌ民族博物館に行かれるのかと、民間がつくっているのかどうか私もよく分からないのです。その辺をもう少し説明していただけませんか。

○委員長（広地紀彰君） 暫時、休憩いたします。

休憩 午後 0時04分

再開 午後 0時05分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて、会議を再開いたします。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今、図面を見て確認をしながらお話をさせていただきたいと思うのですが、白老駅北観光商業ゾーン周辺図の真下に大型バス第2駐車場（38台）というのがございます。西田委員がおっしゃっているのは右斜め下のゲートが付いている部分ということです。こちらにつきまして、アイヌ民族文化財団としては、ウポポイの第2駐車場でゲートをくぐって1台当たり500円、中の元々246台とっていたウポポイの中の西側に縦に長くポロト公園線に沿って整備されている敷地内にある第1駐車場、こちらが246台あると思うのです。これが不足した場合の第2駐車場ということで、こちらに図示しているところの右下側にゲートを付けてウポポイがそこを管理するということになっています。あわせて西側の部分は職員が駐車場として利用している状況になっております。

○委員長（広地紀彰君） 5番、西田祐子委員。

○5番（西田祐子君） 第2駐車場にしているということになれば、ここから車を使った人たちがどうやってこの道を通ってアイヌ民族博物館に行くかということなのです。ほかのところの観光地であれば当然、誘導する人がいたりとかあるのだけれど、北海道としてはそういうこともきちんと考えてくださっているのでしょうか。考えてほしいと思います。というのは周辺の人たちも大変だと思うのです。第2駐車場まで車を誘導して、さらにそこから人が来るということになってきたときに、人の家の軒先を歩くわけですから、迷わないでやってもらいたいと思います。職員のところは町有地だと思うのですけれども、アイヌ民族文化財団に貸しているのでしょうか。その辺はどうなっているのですか。説明を聞いたことがない気がするものですから、説明をお願いします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 基本的には第1駐車場には入れなかった方の駐車場でございますので、ここの部分を道なりに戻って行って公園通りを歩いていく形になるのかと思っております。そこに誘導の看板があったかどうか、交差点に入ってくるにはあると、基本的には看板自体は一定程度、図示を既にされておまして、第1、第2ということで駐車場を施設の外に促すということでございますので、これに対しては誘導員がついてしっかりお客様をご案内できる体制ということで伺っているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 暫時、休憩いたします。

休憩 午後 0時09分

再開 午後 0時10分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて、会議を再開いたします。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 何度もすみません。臨時駐車場に関しましては、町有地ということで町とアイヌ民族文化財団で契約を締結して貸付けを行っている状況でございます。

○委員長（広地紀彰君） これは一応、町の財産であるので、確認の意味を込めたご質疑だと思うのですが、この対応について資料で後日、出していただくということで確認していただくことよろしいですか。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 我々もこの部分については確認不足で大変ご迷惑をかけております。この取扱いは有償、無償の部分と時期とか、そういった部分含めて後ほど資料にまとめて配付して答弁に代えさせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○委員長（広地紀彰君） 5番、西田祐子委員。

○5番（西田祐子君） その他ということで、今回の活性化促進特別委員会ということなものですから、明日から式典が始まって12日にオープンになって、白老町にいろいろな方々が来てくださるということになります。その中で宿泊施設関係がどうなっているのか、その辺はきちんと役場として把握されているのかということだけなのです。なぜかという、ゴートゥーキャンペーンというものがあります。道民割というものもあります。コロナの関係で国内の方々が国内に旅行に行くようにということで国が一生懸命やっていますので、白老町の宿泊施設はどういう状況になっているのでしょうか。コロナの関係で大変厳しかったということもありますので、この機会にきちんとその辺の対応もぜひしていただきたいと思います。

もう一つ、東町に施設があります。ヴィラスピカしらおいの温泉です。そのところもいまだに、あの状況になっていて全然話が進んでいないみたいなのですけども、白老のまちの活性化ということを考えますと、あのままの状況にしておいてもどうなのかということも町民からも随分と意見を言われますので、その辺もきちんと対策をしていただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 現在、道民割が始まって、これ自体は6月28日から実施ということでございます。それぞれの個店の状況をしっかりと手元では押さえてはおりませんが、ある施設に聞きますと道民割のお金自体は一施設ごとの割当てになっているものですから、その施設で聞いた部分については20万円弱の金額だったということですので、例えば1万円であれば5,000円で行って、ほぼすぐなくなってしまうという状況だということでございます。これは登録制でございますので登録してないところについては、適用が受けられないということがございます。現状ですとコロナの関係で、例えば6室があるホテルでいいますと、全体で2組しか受けられないように改修をしているだとか、温泉とか旅館でいいますと8畳間くらいのところに2人ないし3人とか入れ

る旅館も多いのかと思いますが、そこはシングルユースで使うなどということで、ウポポイの開業に合わせてというよりは、コロナの関係で客室のソーシャルディスタンスとか感染予防で図らずも逆に満室にならざるを得ない様子は、あるやに伺っているところでございます。

どのような答弁がいいのか分かりませんが、旧厚生年金保養ホームであるヴィラスピカしらおいは、現状までに再開の動きというものはないということで答弁させていただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） ヴィラスピカしらおいの関係は、先ほどお話したように進展はないといえますか情報としては持ち合わせておりません。確認できる方法があればしていきたいということと、管理そのものは行われているということですので、持ち主はどこかに売却するのかどうか分かりませんが、そういった形で管理自体はされているということなので、何らかの方法で情報は探していきたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

それでは、これで質疑を終了いたします。

次回、本特別委員会の開催日は、正副委員長で調整し別途通知することといたします。

ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ご異議なしと認めます。

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これをもって、本日の特別委員会は閉会いたします。

（午後 0時16分）